

実施学年	1年	実施教科 (科目)	国語	実施日	H24.9.27(木)
単元名	言葉のまとまりを考えよう				
本時の内容 (項目)	文節と単語における、基礎・基本的な分野を能動的に学習し、「知識」「技能」ともに、実感を伴わせながら、定着を図る。				
本時の目標	平仮名ばかりで書かれた文をわかりやすく伝える方法を考えることで、日本語を区切り、言葉の基本単位(文節・単語)について理解することができる。				
授業場所	1-B教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他()		ICTの主な 活用者	教師・生徒	
活用するICT 機器	電子黒板 教材提示装置				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	【目的】考えを深める時間を確保するため。 →【効果】生徒が多くの文節と単語の問題に触れることができ、力がつく。 【目的】生徒(グループ)の意見を全体で交流するため。 →【効果】他の生徒の考えを、視覚から捉えることができ、整理ができる。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容	様々なグループの考えを電子黒板で交流することによって、子ども達同士が教え合い学び合う協働的な学びを推進することができる。 視覚的に情報をとらえることによって、各グループの特性や傾向を理解することができる。				
利用するコン 텐츠名・サ イト等					
参考にしたサ イト・文献 等					
事前の準備	パワーポイントに以下の項目を打ち込んでおく。 ・例文 ・「文章→段落→文→文節→単語」といった言葉の構成図				
指導計画(授)	学習活動			指導上の留意点	

<p>業の展開)</p>	<p>1 出された例文が、分かりにくいことに気付かせ、なぜ分かりにくいのか、意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「は」か「わ」かわからない。 ・間があいていないから。 <p>2 課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>例文を分かりやすくするためには、どうしたらよいだろうか？</p> </div> <p>3 分かりやすくする方法をグループで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハサミで切ってみる。 ・斜線を入れてみる。 ・間をとって、相手に伝えてみる。 <p>4 グループでまとまった意見を、交流する。</p> <p>5 言葉の単位での分け方について考える。</p> <p>① 竹を用いた図から、一本の竹を細かく分けていくというイメージをもつ。</p> <p>② 「文節」という単位について知り、さらに細かくできないか考える。</p> <p>③ 「単語」という単位を知る。</p> <p>6 複数の問題を解き、理解を深める。</p> <p>7 本時のまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>いろんなグループの方法を知って、文を分かりやすくする区切り方を学んだ。また、「文節」や「単語」という言葉を知った。</p> <p>このように、文章を細かく区切って、言葉1つ1つを考えていくことが国語では大事なのだと思う。今、言語操作を中心に読みとりをしているので、生かしていきたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・例文をノートに書かせる。 ・電子黒板に例文を表示する。 ・言葉を区切って考えていくことを意識させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・例文が書いてある画用紙をグループに配る。 <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使って、各グループの考えを提示させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の単位を分かりやすく理解できるように、文章から単語までを構造化して、電子黒板で見せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手（小学校1年生）を具体的な場面設定とし、文節に区切る方法に、「ネ」を使うことができることを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【評価規準】 言葉の単位である、「文節」や「単語」についての理解を深め、練習問題を自分の力で解くことができる。</p> <p>【C→Bへの手立て】 「ネ」「サ」「ヨ」を使いながら、文節に分ける技能面での援助を行う。</p> </div>
<p>ICT を活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p>	<p>例文を提示する際に、黒板に書いたり、掲示物を貼ったりという方法をとらず、電子黒板を活用したのは、より多くの例文を扱うためである。生徒が複数の例文に触れ、基礎・基本を押さえられるようにした。</p> <p>また、各グループの考えを視覚的に全体へ広められるように、教材提示装置を用いた。</p>	
<p>ICT を活用した授業時の児童生徒の反応</p>	<p>視覚的に情報を入手できるため、興味・関心が高まった。また、グループ間での学び合いができ、活発な意見交流につながった。</p> <p>さらに、効率的に時間を使ったことで、多くの問題練習を積むことができ、わかりやすい理解を助けることができた。</p>	
<p>ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）</p>	<p>グループで編み出した方法を全体へ広めるときに、どうしても言葉だけでは、伝えきれない部分があるが、電子黒板を用いることで、視覚的に分かりやすく伝えることができた。また、言葉の区切り方の基礎・基本が確実に身についたと思われる。</p>	
<p>今後の課題</p>	<p>国語の授業において、いかに継続的に ICT を活用していくか考えていきたい。例えば、単元の導入時に使用することで、生徒の興味、関心を引き出すことができる。また、本文を電子黒板に表示することで、文章を指しながら発言することもできる。効果がしっかりと表れるため、これから実践していきたい。</p>	